

# 「目黒区民センター見直しに係る基本的な考え方」の策定に向けた検討素材（概要版）

## 第1章 区民センターをめぐる状況

## 第2章 新たな区民センターに向けて

**(1) 区民センターが果たしてきた役割・機能**

○昭和49年(1974年)の建設以来、様々な区政課題に対応するため、それぞれの分野ごとの施設において広く区民サービスを提供し、課題の解決や区民活動が多様に展開される場として親しまれてきました。

○さんま祭りを含んだ「目黒区民まつり」や「目黒リバーサイドフェスティバル」等、区内外から多くの方々も集うイベントなどが開催され、賑わいを創出する場となってきました。

**(2) 区民センターの現状から見える課題**

築45年が経過し、ハード面・ソフト面等で課題が顕在化しています。

**【ハード面】** 建物の老朽化やバリアフリー対応、また敷地活用や建物配置などに課題があり、今後、施設の更新によって最大限の効果を図る手法を選択する必要があります。

**【ソフト面】** 利用者が区民センターをどのように利用したいか、どのような活動を行いたいかという点に留意しつつ、施設間での効果的な事業運営や、貸室を含めた施設の効率的な活用により、複合施設としての効果を最大限図ることが求められます。

**【都市計画における現行法規への適合】**

区民センター建設後の絶対高さ制限の導入により、既存の区民センターと同程度の建物を整備する際には、用途や形状等について様々な制約が生じます。

**(3) 区民センター周辺エリアにおける地域特性**

**ア 区民センター敷地の特性**

- ・目黒駅と中目黒駅の間地点に位置しており、時代に応じた施設を整備することで、区民によるさらなる主体的な活用が期待されます。
- ・目黒川に隣接するなど、貴重な観光資源をさらに有効活用することで、目黒区のシンボル施設としての可能性をさらに高める要素を秘めています。

**イ 目黒駅、中目黒駅周辺におけるまちづくりの動き**

- ・目黒駅前では、再開発事業による住宅やオフィス、店舗の開発などまちづくりの動きが加速化しており、時代に応じた変化を見せています。
- ・区民センター周辺でも、様々な団体や住民同士の情報交換や交流、連携・協力した活動が生まれており、新たな働き方や余暇活動が出現しはじめています。
- ・中目黒駅周辺には、大学の開校等に伴い多種多様なコンテンツが創出・発信され、時代の流れに敏感な人たちが集う街への変化が見られます。

**(4) 社会状況の変化**

**ア 国・都をめぐる社会潮流**

- ・AI等の新技術の活用による産業構造・雇用構造への影響が予想されます。
- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催、リニア中央新幹線開通による都市間競争の活発化など、都市の競争力の変化も見込まれています。
- ・暮らし方、生き方等の変化に対応した社会の実現が求められています。
- ・インフラの老朽化と維持管理コストの増加への対策として新たな技術の導入等も進展していくと考えられます。

**イ 区を取り巻く状況変化**

- ・区民センター建設以降、社会経済環境や生活環境が変化し、区民の暮らしや活動の多様化、地域との関わり等に変化が見られてきました。
- ・近年の情報通信技術の飛躍的な進展等による生活スタイルの多様化等を踏まえ、平成30年(2018年)には「目黒区基本構想の改定に当たっての基本方針について」を公表し、令和2年(2020年)の策定に向けた改定作業を進めています。

**(1) 新たな区民センター検討の大きな方向性**

新たな区民センターは、次の大きな方向性を念頭に置きながら、実現に向けて検討します。

**ア 各施設で担ってきた「はたらく」、「まなぶ」など区民活動を支える機能を継承しながらも、将来にわたり柔軟な利用を可能とする観点から、縮充(既存機能の融合化・縮減化と、新たな機能の導入により区民サービスの充実を図ること)を目指す。**

**イ 施設整備及びその後の運営も含めた事業全般において、可能な限り民間活力を導入することで、施設の魅力向上を図る。**

**ウ 見直しに伴う周辺地域との関係において、利用者と地域住民が安全・安心とともに親しみを感じられる拠点とする。**

**(2) 新たな区民センター検討で捉える区民活動の変化予測**

国・都をめぐる社会潮流や区を取り巻く様々な状況変化を踏まえ、以下の3点に集約します。

**ア 新たな価値観の中で区民が自発的に活動を生み出し、周囲とのゆるやかなつながりの中で実践できること【主体性・共有性の促進】(いきいきと)**

*場所や空間の自由度の高まり、創造的な余暇活動の登場、「働く」概念の変化*

**イ 多様な価値観を持った人々が積極的に交流することで寛容さを育めること【多様性の尊重】(じぶんらしく)**

*価値観の多様化、社会の包容力の高まり*

**ウ ライフステージに応じて柔軟な働き方・暮らし方・過ごし方を選択できること【柔軟性・可変性・安全性への対応】(しなやかに、すこやかに)**

*ライフステージの変化への対応、生涯現役社会の実現、安全で安心な居場所の確保*

**▶▶▶ (3) 新たな区民センターの未来像(コンセプト): (仮)「未来とつながる 人とつながる 新たな自分とつながる」“できる”が広がる創造空間**

**(4) 新たな区民センターに求められる機能とその方向性**

未来像(コンセプト)の実現に向け、次の活動空間イメージをもとに、新たな区民センターに求められる機能を整理します。

**ア 新たな価値観の中で区民が自発的に活動を生み出し、周囲とのゆるやかなつながりの中で実践できる空間【主体性・共有性の促進】(いきいきと)**

- ・新しいアイデアを生み出し、積極的に発信すること 《つくる、つたえる》
- ・自身の嗜好やライフスタイルに合わせて、働き方や過ごす場所を自由に選択すること 《はたらく、つどう》
- ・組織や所属を超えて多様な人とつながり、知識や体験を共有すること 《つながる、つどう》 など

**イ 多様な価値観を持った人々が積極的に交流することで寛容さを育める空間【多様性の尊重】(じぶんらしく)**

- ・世代や性別、国籍に関わらず、誰もが参加できる活動の場を設け、多様な価値観に触れる機会を生み出すこと 《つどう、つながる》
- ・多様な人々との交流を通じて、考え方の違いを理解すること 《つながる、まなぶ》

**ウ ライフステージに応じて柔軟な働き方・暮らし方・過ごし方を選択できる空間【柔軟性・可変性・安全性への対応】(しなやかに、すこやかに)**

- ・育児や介護などライフステージの変化への備えや必要となる対応、支援策等について理解すること 《まなぶ、はぐくむ、ささえる》
- ・それぞれが思い思いの場所でつづろぎ、利用者同士で自然発生的に交流が生まれること 《いこう、やすらぐ、つながる》

以上の活動空間イメージを踏まえると、今後、新たな区民センターに求められる機能は、次の5つの類型に集約・整理されます。(空間例等は裏面参照)

**①つくる・つたえる ②まなぶ ③はぐくむ・ささえる ④いこう・やすらぐ・つどう・つながる ⑤はたらく**

**《新たな区民センターの実現に向けて留意すべき視点》**

未来像(コンセプト)を実現するためには、施設を効果的かつ効率的に整備していく必要があります。そのためには、整備の方法や整備後の運営方法、また整備に必要となる財源をどのように確保するかを重点的に検討する必要があります。ここでは、施設整備の方向性(土地活用の範囲)や民間活力の活用度合いから整理します。

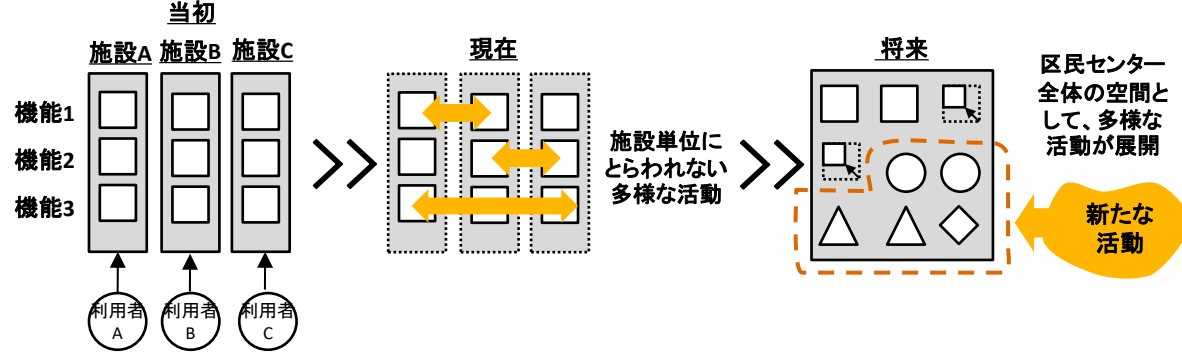
	パターン①	パターン②	パターン③
パターン	未来像(コンセプト)に合った空間整備実現に向け、民間活力も最大限活用	未来像(コンセプト)に合った空間整備を最低限実現し、民間活力は一定程度活用	現行の建物を改修したうえ、可能な範囲で機能改善
施設整備の方向性	近接区有施設(下目黒小学校)の敷地を含めて改築	現在の区民センター・美術館の敷地で改築	現行の区民センターを改修
民間活力の活用	建設及び運営において民間活力を高い割合で活用	建設及び運営において民間活力を一定程度活用	現行以上の民間活力の活用は非常に限定されることが見込まれる
財政負担の割合	区の負担割合は相当程度軽減	区の負担割合は一部軽減	区がコストの大部分を負担
未来像(コンセプト)実現可能性	高い		低い



# (5) 新たな区民センターの空間イメージ

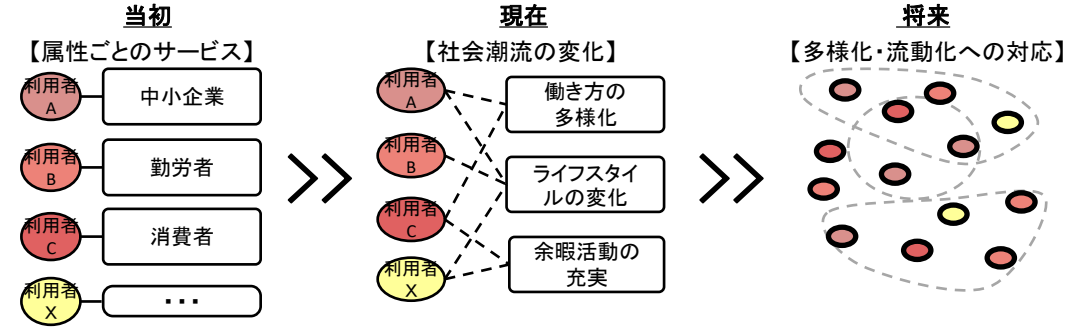
## 施設の利用実態からみた区民活動の変化

・これまで区民センターでは、施設毎に利用者へサービス(機能)を提供してきました。  
 ・しかし、施設の利用実態をみると、施設の単位にとられない多様な活動が展開されています。  
 ・また、区民の活動が多様化することで、当初想定していない新たな活動も生まれており、区民センター全体の空間として、新たな活動に 대응していくことも期待されています。



## 将来を見据えた社会潮流の変化への対応

・働き方の多様化や余暇活動の充実等の社会潮流の変化により、現在は区民活動に応じたサービス(空間)の提供が期待されています。  
 ・今後、区民活動は一層の多様化が予想されており、多様化する活動に区民センター全体で応えていくことが求められます。



## 新たな区民センターの方向性(具体的なイメージと空間例)

### つくる・つたえる

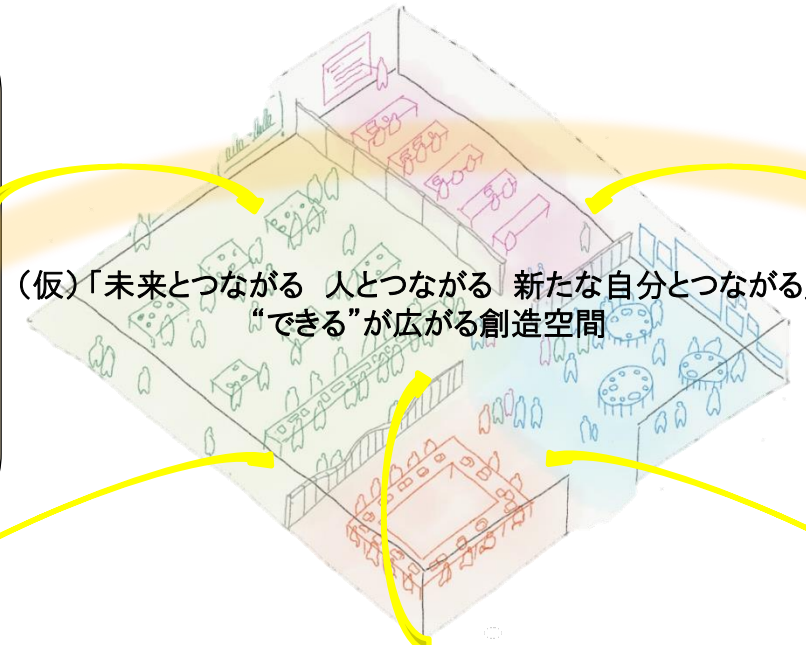
- 個人やグループが作業を行い、新しいアイデアや成果を生み出すことのできる空間
- 音楽や演劇、ダンス等の練習や、書道や華道、美術などの多様な創作活動が可能となるとともに、成果や作品の発表・展示の機会を充実させることのできる空間
- 多様な文化芸術に触れる機会を充実させることのできる空間



可動式座席を備えたホール  
(茅野市民館・マルチホール)



展示等が可能なギャラリー  
(武蔵野プレイス)



(仮)「未来とつながる 人とつながる 新たな自分とつながる」  
 “できる”が広がる創造空間

### はたらく

- 区民の多様な働き方に対応できる、区民が落ち着いて作業に取り組める空間
- セカンドオフィスとしての利用も可能な空間



ワーキングスペースなど  
(武蔵野プレイス)

### まなぶ

- 自主学习や共同学習ができ、区民の学びの質を高めることのできる空間
- 電子書籍やデータベース等を利用できる機会を充実させることで子どもから大人までの知的好奇心に応えることのできる空間
- 自ら勉強会やセミナーを企画・開催し、多様な学びの機会を充実させることのできる空間



間仕切りの設置による柔軟な空間  
(大和市市民交流拠点「ボラリス」)



電子書籍が利用可能な図書館  
(千代田区千代田図書館)

### はぐくむ・ささえる

- 誰もが利用できるオープンスペースを活用して、多様な価値観に関する様々な情報発信等を行い、認知度を高めることのできる空間
- 地域のまちづくりやNPO等の活動の紹介スペースが設けられ、区民が気軽に地域活動やイベントに参加することのできる空間
- 地域で子育て世代を支援し、また子どもの健全な育ちを支える空間



乳幼児をもつ親子を対象とした交流スペース  
(大和市市民交流拠点「ボラリス」)



ワークショップのできる多目的スペース  
(横浜市民ギャラリーあざみ野)

### いこう・やすらぐ・つどろ・つながる

- いつでも思い思いの時間を過ごすことのできる、制約の少ない自由な空間
- 誰もが利用しやすいフラットな空間
- 新しい活動に出会い、参加することのできる空間
- 居心地の良いサードプレイスとして、また時には様々なイベントによる賑わいが生まれ、地域の安全・安心も支える自然空間



カフェを備える施設  
(武蔵野プレイス)



都心の中のくつろげる公園  
(南池袋公園)